

留学先の山西大学

北清 康二

8月26日に山西省太原空港に降り立ってから今日で4週間目を迎えました。

来てからの2週間ほどは、生活環境、新学期の始まった授業への準備等で慌ただしかったです。学外に出たのは、最初の週末に市内の双塔寺を見学に出かけた以外は、中国銀行で銀行カードを作る、ウォルマートに生活用品を買い出しに行く、検疫局に健康診断書を提出に行った程度です。

少ない外出経験から受けた太原の印象は、街をゆく人がとてもものんびりに見えます。

さて、9月3日にクラス分けのテストが行われました。テストは2ページほどのペーパーテストと短い文章の朗読と会話の確認です。テスト結果、私は高級班に振り分けられました。語学のクラスは、初級、中級、高級の3クラスです。

今年の留学生は43人程度と特に多いとクラス分けのテストの時に、先生から聞きました。これには、15日の早朝に帰国した短期留学の日本人グループも含まれていたようです。現在の、それぞれのクラスの出席者数を聞いたところでは、初級クラス16名、中級クラス14名、高級クラス6名の36名位ようです。中には、教科によりクラスを跨って出席しているものもいるためはっきりしません。見聞きした長期(1年以上)留学生の出身国は、日本(11)、韓国(11)、アルメニア(3)、タジキスタン(2)、アメリカ(5)、ドイツ(1)、フランス(1)、カメルーン(1)、タイ(1)です。留学生は、私ともう一人同年輩の日本人、韓国男性、中年の韓国人5人以外は、10台後半から20台半ばまでの若者です。

山西大学の敷地は台形をしていて、高さ(南北)1,500メートル、上辺(北)600メートル、底辺(南)800メートルほどです。到着した次の日に学内を一周してみましたが、4時間ほど掛かりました。

学内には、教職員の住宅もあります。一体どれくらいの方がこの学内に居住しているのでしょうか。学院で聞いてみましたが、「さ~何人だろう?」「そんな質問は、はじめて受けた」と明確な応えは帰ってきませんでした。学生数は、1万人程度です。宿舎の数から推定すると学生と同等数以上の教職員が居住しているように見えます。敷地内の居住者は2万人以上でしょうか?これだけの人数が居住するので、学内にはスーパー、病院、郵便局、銀行支店、床屋、幼稚園と一通り揃っています。一つの町といっても言い過ぎではありません。

留学先の国際教育交流学院は、北門から歩いて200メートル程度、北の道路から50メートルのところに位置します。4階建ての建物で、宿舎と教室が同居しています。トイレは各階に、シャワーは1Fに設置されています。3Fには共同のキッチンがあります。留学生の部屋は、歩測で奥行き4メートル、幅3.5メートル程度、6畳程度の広さです。床は、フローリング仕様で比較的快適です。



山西大学構内マップ（左側が北）



山西大学の正門（西門）



山西大学国际教育交流学院



寮の部屋